Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報　Web 公開版
発行日：2009.4
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.42

CONTENTS

- ウジェーヌ・アジェ（Eugène Atget）展を見て
- 平木先生追悼
- 【写真に託する】（第 13 回写真展に贈られた平木先生のことば）
- ゾーンシステム研究会第13 回写真展全作品
- ゾーンシステム研究会第13 回写真展メディア掲載
- ゾーンシステム研究会第13 回写真展スナップ
- ゾーンシステム研究会第13 回写真展 Technical Information
- MARIANA COOK 写真集　Close at Hand
- インフォメーション

ウジェーヌ・アジェ（Eugène Atget）展を見て

中島秀雄

JR 川崎駅北口にある音楽を中心とした　”ミューザ川崎シンフォニーホール”で、先ごろ川崎市市民ミュージアムコレクション展　“古き良きパリの街並み　写真家・アジェの仕事”　展が開かれた。川崎市市民ミュージアムは、日本で始めてゾーンシステムのワークショップを開いた美術館で、多数の写真コレクションでも知られている。

はじめに

フランスのエスプリを捉えた写真家とまで言われた写真家・アジェについては、伝説的なことが多く詳しいことは分からなかったが、近年多くの研究者によってその細部が分かるようになってきた。私が最初にアジェの作品を見たのはいつだったか覚えていないが、古き良き時代のパリの街を捉えた写真として記憶している。

世紀末のヨーロッパ

19 世紀末ヨーロッパは、科学の進歩、資本主義の成熟によって未来はばら色に見えたのもつかの間、多くの矛盾を抱え革命と反動が吹き荒れていた。しかし、芸術家達は、社会と人間、そして自己との新たな結びつきを求め活動をはじめていた。そんな中で一人の無名な中年男が、パリの街を重いカメラをかついで動き回っていた。後に有名になった写真家・アジェだ。

フランスはボルドーに生まれる

1857 年、アジェは、フランスのボルドー近郊の街リブルヌで生まれた。幼くして両親を亡くし、叔父に引き取られ、少年時代は外国航路の船の給仕になっている。その後、20 代で旅芝居の役者になり、国立演劇学校にも入学しているが、結局、役者はあきらめ、画家の道を進む。しかし、これもうまくいかず、そのころから写真の道を模索するようになる。

最初の客

本格的に写真の道に入ったのは 40 歳を過ぎていた。1899 年、モンパルナスの街の一角に「Atget - documents pour artistes」という看板をかかげ、パリとその近郊で撮影したプリントの販売をスタートさせた。アジェの友人には絵かきも多く、彼らから写真の問い合わせがあったのかもしれない。ある程度売れることを前提にしないかぎりカメラと処理機材一式をそろえることなどできない。案の定、最初に現れたお客は、画家のブラックやユトリロでアジエにとっては充分な値段だったといわれている。ユトリロは、部屋の中で街を描いていたというから、アジェの写真は大いに役に立ったものと想像できる。アジェにとって自分の写真がアーティストに見られ使われることは、大きな誇りだった。そのほか出版社、デザイナー、建築家、博物館、古いパリに興味を持つ人々を対象にしていたが、これは、あくまでもアジェが望んだ客のリストだったようだ。また、当時のプリントの値段は、絵葉書一枚と同じ程度の値段だったといわれる。

アジェの被写体

アジェが被写体としたのは、パリとその近郊にあるありとあらゆるものが対象となっている。街角、通り、裏庭、商店、酒場の入り口、記念碑、古い教会、ショーウインドー、バルコニー、河川の光景、馬車、場末の街、縁日、と様々なものに

カメラを向けている。

私が特に好きな写真は、レストランや酒場のファサード(建物の正面入り口)を撮影したもので、どのファサードも人々を引き付けるための装飾過多と思える素材で飾り立て、それは、彫刻、レリーフ、ガラス、鉄の扉、鉄格子からなっている。それらの装飾は奇怪で、楽しく、素朴で、そして、何よりも個性的でアジェ自身も楽しんでいたのではないかと思えてくる。なぜなら、当時の建築家やデザイナーの技量を通してパリの現在を見る行為でもあり、また、写真にするための素材の集合のように見えるからだ。アジェが捉えた写真の中には、普段多くの人々が生活しているはずの広場や路地に人は写らず、何か大きな事件現場を見るように、アジェの写真に引き込まれていく。壁のシミや割れ目、彫刻が張り付いた梁、壊れた自転車や水溜りには日常的に見れば誰もが受け入れるたわいのないものでも、モノクロームの克明なアジェの写真に捉えると日常的な意味とは違うが世界が見えてくる。アジェの写真を必要としていた人々の中には、日々、見慣れた街並もカメラが写し撮ると別の世界が見えていたのだろう。当時の美術界は、記録手法によって、被写体の持つイメージを変貌させたり別の意味に置き換えたりするシュールリアリズム運動が起きていた。人物写真は少ないが、ガラス窓越しに写り込んだ人々のスリリングな表情に、カメラは、人々の心の中まで写し撮る道具のようにも見えてくる。ときおり路上の物売りに声をかけ撮っている。”ランプシェード売り”の作品を見るとピントは甘く感度の低いガラス乾板による撮影の難しさが分かる。パリを離れ郊外への撮影には、バスを利用していたようだ。バイク、オープンスポーツカーが走っていた時代に都市バスがどの程度走っていたのか分からないが、主な公園や美術館を巡るルートに沿って撮影は可能だったのかもしれない。

アジェが使用したカメラ

アジェが使用したカメラは、7 1/4× 9 1/4 インチサイズ、ガラス乾板　乳剤の感色性はオルソタイプ(青に強く感じる乳剤)で、それは、アジェの写真を見ると青空はいつも真っ白に見えることから分かる。レンズはラピッドレクチャーといわれているが詳しくは分からない。フォーマットサイズから標準レンズは、300mm となるが、アジェの作品を見ると 300mm で捉えた作品は一枚もない。画角やパースペクティブから見る限りワイドレンズを使っていたように見える。おそらく 200mm 前後の焦点距離を持つレンズ一本で事に当たっていたと思える。また、アジェは、レンズの解像力が良くないことから、絞ることで対処していたようだ。しかし、いったい露出はどのように決定していたのだろうか。恐らく経験を通して朝の光を見れば露出の決定は出来たのかもしれない。建築物を撮影した写真を見ると空の部分が半円形の黒焼きになっているが、これは、レンズをライズしてアオリを使ったことからレンズの包括範囲を超え、ケラレとなってしまった部分で、レンズのイメージサークルが小さいこともわかる。

イギリスの写真家フランシス・フリス(Francis Frith)(注 1)はアジェより前の時代の写真家で、8x10、16x20 のカメラをかつぎエジプトを撮影し、すばらしい作品を残している。当時は、湿板写真の時代で、撮影の直前に感光乳剤を支持体に塗って乳剤が濡れている合間に撮影しなければならず、濡れた乳剤に砂が付着し悩まされたこともあったようだ。しかし、彼の作品はよりシャープに見えることから優れたレンズはすでに存在して

いた。アジエは、すぐれたレンズを手に入れることは出来なかったのだろう。

現像・プリント

撮影後、帰宅し現像にとりかかる。どのような現像液を使っていたか分からないが、彼のツメは、現像液の汚れが付着し、その汚れが取れることはなかったようだ。エドワード・ウエストンのツメもパイロ現像液によって常に汚れていた。ガラスプレイトの現像は、フィルムと違う厄介さを伴うことだろう。特別な現像方法を駆使していたのかもしれないが、その後の水洗、乾燥にも慎重にならざる終えない。出来上がったネガは POP 印画紙(Printing Out Paper)に密着して取り枠に装填し、自然光にさらして焼き付ける。焼付け時間は、光の強さ、ネガ濃度によって経験的に割り出していたのだろう。その後、定着し水洗・乾燥して仕上げるか、塩化金による金調色を施し定着、水洗、乾燥して仕上げていた。

金調色といってもプリントの色が金色になるわけではなく、紫がかった黒から時間、温度によって茶系の黒と変化していく。クラシックな味わいと、暖かみのあるプリントに、当時、パリでは流行っていたようだ。また、金調色は長期保存にも役に立ち、アジェのビンテージプリントが当時の色調そのままに見ることができるのも金調色のすぐれたところだ。

アジェの生活

アジェは、生活費を徹底して切りつめ、上等の写真材料を手に入れるためにつぎ込んでいたようだ。食事といえば、ミルクとパンと角砂糖少しという簡素な食事しかとらなかった。いったい、これだけの食事で重い機材を担ぎ動き回ることが出来るものなのか。服装にも無頓着だった。アジェが重いカメラをかつぎパリの街を動き回る姿は、人々からは変ったやつが動き回っていると見られていたようだ。怪しい、スパイと疑われつけまわされたこともあったようだ。そういう理由でアジェは、早朝まだ人気のない時間帯に撮影時間を変更している。

ネガとプリントは米国へ

アメリカの女流写真家・ベレニス・アボット(Berenice Abbott)(注 2)が強い関心を示さなかったらアジェの作品は、世に出なかったかもしれない。1926 年、当時、**マン・レイ**(注)の助手を務めていたアボットは、マン・レイ(Man Ray)(注 3)から一枚の写真を見せられた。その写真に心引かれたアボットは、エレベーターもない 5 階のアジェの部屋を訪ねた。そのときアジェは、すでに 69 歳になっていた。それ以来アジェとの親交を重ね、親しくなっていく。そして、1927 年、再びアジェを訪ねると、「アジェ・アーティストのためのドキュメント」の看板が取り外され、彼の死を知った。アジェが残した数千枚のネガはきれいに整理され、目録までつけていた。アボットは、アジェの友人がそれらを保管していることを知り、交渉によって彼から数千枚のネガとプリントを買い取り、米国に持ち帰った。アジェの作品は、1930 年に米国で公開され、大きな反響を呼び起こし、後の写真家に大きな影響を与えることになった。

後の評価

アジェの写真に対する後の評価は、「主観的なスタイルの写真というよりも、彼の記録態度はあくまでも感傷を排して客観的」「カメラを率直にそのまま使った」という評価が多い。

私は、アジェのデザイン感覚はすばらしいと感じている。絵かきのキャンバスを画面の隅に取り

入れた写真は、完璧なカメラ位置とフレーミングに絵作りのうまさを強く感じる。何を撮りたいのか、美の中心はどこか、写真に必要なモチーフはどれとどれがあればよいのか、アジェ自身の内側にある感性と眼差しで捉えている。そして、何よりもパリの街を愛し、カメラに慣れるにしたがって愛するパリを撮るには大きなカメラが必要で苦にはならず、むしろ楽しんでいたと思えてくる。無名の一生を終えたとはいえ、人生の半ばでパリの写真を撮るという大きな目標を見つけ、それを手に入れたことを考えると、充実した生涯だったように見える。多くの写真家が心の中でアジェを慕うのは、あるべき写真家のスタイルと感じているからだろう。

アジェが撮影したこれらの膨大な記録は、今日パリでは、もはや見ることが出来ない当時の生活とパリの様子を記録した貴重な写真というばかりではなく、古き良き時代のパリを捉えた幻想的な映像詩といえる。

(注 1) Francis Frith　英　1822-1898
食品の卸業、印刷会社、写真印画の部門設立。風景写真を得意とする。

(注 2) Berenice Abbott 米 1898- 1991
ニューヨークで彫刻を学び、パリでも彫刻の勉強をする。マン・レイのアシスタントの後にパリでポートレートスタジオを開く。ニューヨークに戻り、アジェの作品をアメリカに紹介する。ニューヨークのドキュメントを始める。1968 年、 ニューヨーク近代美術館は 5000 点のプリントと 1000 点のネガをアボットから買取る。

(注 3) Man Ray 米国 1890-1976
(本名・エマニュエル・ルドニッキー)
1915 頃から写真を始め、自分の作品を写真で残すことが目的だった。
パリに渡り、生活手段として写真が役に立つ。
絵画、映画、写真、オブジェ等、シュールリアリズムを通して表現した。

［ 参考文献 ］

・ライフ写真講座
・ピクチャー・ヒストリー(ピーター・ポロック)
・世界の写真家(重森弘奄)
・写真 150 年・その光と影 （日大、工芸大コレクションプリント展)資料）
・写真の世紀展

平木先生追悼

中島秀雄

皆さんには、残念で悲しいお知らせをしなければなりません。

ゾーンシステム研究会誕生のきっかけを与えてくれた写真評論家の平木収先生が、2 月 24 日、福岡で倒れそのまま帰らぬ人となってしまいました。

2 年前に大病し療養中であることは皆さんに伝えていました。

昨年は、電話、メールを通して研究会総会時の講師をお願いしていましたが、体調がすぐれないということから直接会うことは出来ず、大変心配していました。

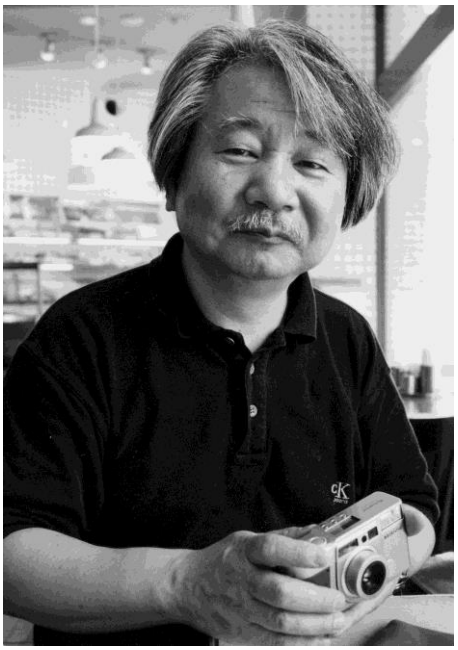
研究会誕生のきっかけは、川崎市市民ミュージアムでのゾーンシステムワークショップでした。そのスタートは、PGI で開かれていた私の展覧会場で、市民ミュージアム学芸員の平木さんから直接頼まれたことがきっかけでした。

すでに写真評論とし高い評価を得ていたときだけに、私も緊張感をもって引き受け、そのときの情景は今でも記憶に残っています。

アンセル・アダムスに対する造詣も深く、多くの文章を書いていました。

「アダムスのファインプリントからは、シンフォニーが聞こえる」という文章にあるように、アダムスに対する深い思いを語る他の評論家を私は知りません。

「デジタル写真は、錬金術でしょう」と多少怒りを交えて語っていたように、銀塩写真への深い思いを通して私達研究会を見ていてくれたことが、研究会にとっても大きな支えでした。



撮影　中島秀雄

私達の地道な取り組みに対する評価は、平木さんの毎回の展覧会文章からお分かりだと思います。

今後、研究会は、平木先生の遺志を受け止め、今までの経験を通して進めて行きたいと思います。

平木収先生、長い間ゾーンシステム研究会、及び、日本の写真文化に熱い思いを語り続けてくれたことに対して感謝いたします。

ご冥福をお祈りいたします。

【 写真に託する 】

写真は写っていればいいというものではない。
どのように写っているのか、
またどのように見せるのかが大切な要件だが、
それ以前にもっと大切なことがある。
それはなぜ写真を撮るのか、という動機の問題だ。
写真の写りや仕上げなど出来栄えはおおむね技術的な問題だが、
なぜその写真を撮ったのか、
それは撮られたのかという動機は撮影者の心の問題、つまり精神の表れなのだ。
じつは写真に撮りたい何かとは眼前のものやこと、
レンズの前の事態だと考えがちだが、
それ以前にその対象を撮影したいという心境、
平たく言うと気持を留めおきたい、
取り置きたいから撮るのだといえる。
そしていい写真にはその気持が立ち現れる。
またそうした確乎たる動機に支えられた写真は、
見せるということ、つまり仕上げにも十分考慮が盛り込まれているものだ。
信念や志を携えた写真活動は、
写ればいいという目標のみを掲げない。
ゾーンシステム研究会の近年の活動はまさにそうした方向がはっきりしている。
一見撮影技術の研究会のようだが、
活動歴を顧みるとその根底を支える知的な営みにも関心が払われ、
研鑽に余念がない。
いまやデジタル主流の時代。
だが最新のモノクロ専用デジタルプリンターが４色や５色のグレー系インクを
使っていることなど、
まさにゾーンシステムの思考方法だ。
しかし、それは階調が出せればいいという技術であり、
オリジナルなゾーンシステムはそうではなく、
撮影時からなぜそれをそう再現するのかを、
撮影意図にかんがみて想定する。
こうした総合的な撮影行為が写真に託する気持を具現した作品となり、
いまや危機に瀕している「写真の価値」を維持してくれるのだと思う。

滞在先のパリにて　　平木　収・写真評論家

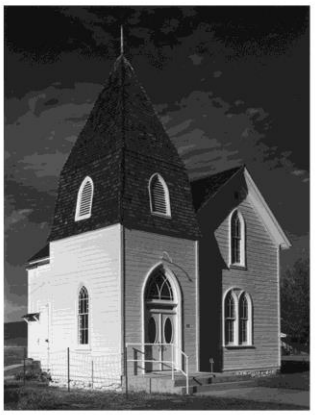
（ゾーンシステム研究会 13 回写真展に贈られた平木先生のことば）

ゾーンシステム研究会第13回写真展［光への探求］全作品

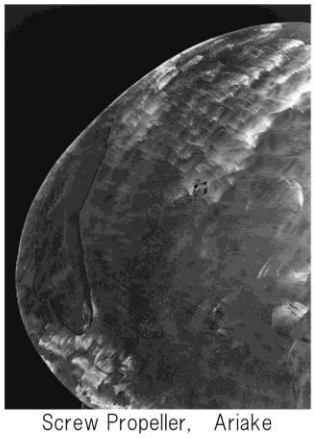
中島秀雄

【プロフィール】
神奈川県生まれ。1968年東京写真大学（現・東京工芸大学）卒業。
1968―1977年　写真家・細江英公氏の助手。フリーとなりアメリカ旅行。
1986年アメリカ・バモント州“ゾーンVIワークショップ”に参加。
1995年“ゾーンシステム研究会”設立・代表。
個展、グループ展多数。写真集・“藤田昭子の原風景”（筑摩書房）、
“ゾーンシステム・ハンドブック”（朝日ソノラマ）。
プリントコレクション：東京工芸大学、日本ポラロイド、個人多数写真家
日本写真芸術学会会員、ゾーンシステム研究会代表、東京工芸大学芸術学部
非常勤講師、京都造形芸術大学通信講座講師。

写真は、科学と化学、そしてアートがつながり、テクノロジーの発達でその形を少しずつ変えてきた。今、デジタル画像の登場で、銀塩写真の先行きが危ぶまれている。しかし、銀塩の化学変化による写真は、やはり独特の美的品質を備えた表現手段であり、もしかすると銀塩写真の情報としての役割は終わり、今、改めて銀塩写真の時代が始まったといえるのかもしれない。


Bridgeport Community Church, Calif

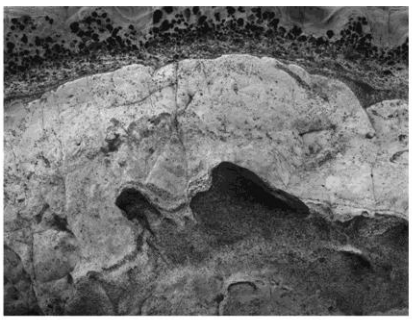
Matthew Adams,　Yosemite,　Calif.


Screw Propeller,　Ariake

松本ひさ子

【プロフィール】
高校の時、写真が面白いと思い、その道を選んだ。
今は好きなことを続けられる幸せに感謝している。

【荒崎海岸】
その後何度か行ってみたがあの時の光に巡り合うことはなかった。
【鳳凰】
脇見しながら歩いた鳳凰古城の街。道端の骸骨さえ自然に感じた。

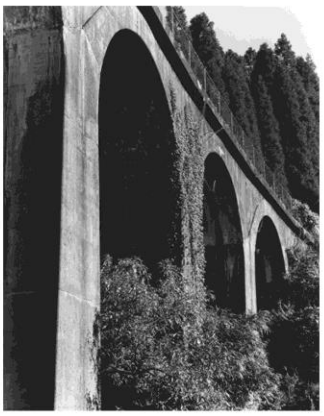

荒崎海岸

鳳凰

荒井崇

【プロフィール】
・アサヒカメラ2006年2月号掲載［橋脚］
・個展［橋脚］開催
　2004年2月～3月　外苑前ギャラリーDAZZLE/鎌倉ワイン館
　2006年5月～6月　青山アートスペース瑠璃
・ゾーンシステム研究会会員/JPA会員/フォトスカラベ会員

【橋脚】
ライフワークの1つとして橋脚をモチーフにしています。
この橋脚は熊本県の旧宮原線廃線跡に残る橋脚で、鉄筋の代わりに竹を使った竹筋コンクリート橋です。
【コンテナ埠頭】
お台場にあるコンテナ埠頭です。
クレーンの特異な形に興味深いものがありました。


橋脚

コンテナ埠頭

石井政吉

【プロフィール】
東京写真専門学校写真学科観光写真専攻卒
現代写真研究所研究科英ゼミ終了

【コメント】
大地の隆起、波の浸食、火山活動による飛来物などによる地球の脈動によって形成されて来た城ヶ崎海岸の自然を自分なりの撮らえ方で作品にしました。

岩・アンバランスな安定感

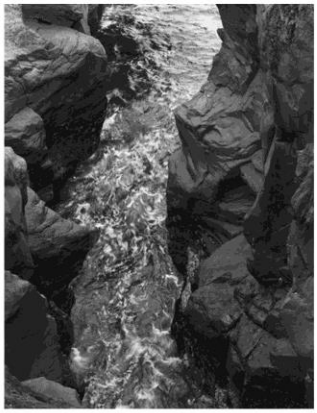
波・上げ潮の残影

越後久雄

感動したことを大判写真で表現するには相応の技能、時間、忍耐が必要です。
モノトーンのドラマティックな写真をめざして写真展・絵画展を鑑賞し構図、光の関係を学ぶようにしています。

【潮音】
五月の伊豆城ヶ崎海岸、ぼら納屋という所の先は溶岩だらけの海岸だった。
【tunnel 】
汗だくになって30分程歩くと、碓氷峠の橋げたにたどりついた。その上に登ってみると、鉄道線路だったところは遊歩道になっていて、タイムスリップしたかのようなトンネルが現れた。

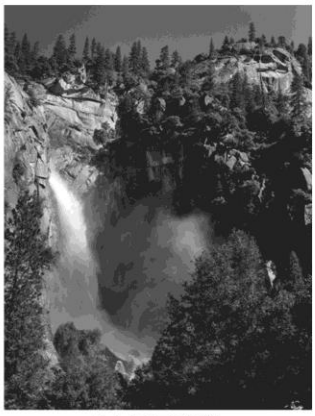
tunnel


潮音

圓子靖也

【プロフィール】
1938年7月生まれ
中学2年頃より父親から貰った カメラ ”パーレット”(複玉・ベスト判) で初めて写真を撮り始める。
大人になってからは、或る民間企業に身を置き、一時期写真と縁遠くなったが、写真のことは常に頭から離れなかった。

【光る波】
表現意図　夕陽に光り輝く波模様を
【ヨセミテの滝】
表現意図　水飛沫の雰囲気、凄さを


ヨセミテの滝

光る波

岡崎克之

【プロフィール】
1935年生
1980年　東葛フォート入会
1999年　ゾーンシステム研究会入会
どちらも現在に至る

【ブリッジ】
カメラマンは新しい物好きで、建設中のお台場と芝浦方面は暇があれば35mmで撮影に行っていました、でもその後、仕事で毎日レインボーブリッジを通っていましたが撮影には行きませんでした、
それに気がついたのが家内の病でした。良く車で一週間から10日位撮影に行きましたが、泊まりがけでは行けず近場でと思い直して出かけて撮影した作品です。
【レジャー】
もう、愛犬とペア2人しかいなく朝夕の散歩があり、ますます、遠出ができず近場でと、千葉市の海浜公園を下見してきました。今年も7月には暑い日が続き出かけるのは気が進みませんでしたが、千葉市の会報で、海の記念日でヨットのレースが在る事を知り暑い中出掛けました。中々思い通りには行かず期待した作品は失敗。フィルムが残っていたので近くのサーフボードの場所に行き、ビックリ、大勢のサーファーが楽しそうにボードを風に操り、中には休み、または仲間と話し合ったりで、そのひと時を4x5のカメラで手持ちでなく三脚を付け、一瞬どう切り取るか、動きがありボードの重なりピーカンの逆光と条件は最悪で何回も三脚ごと移動して2、3カットの一枚です。

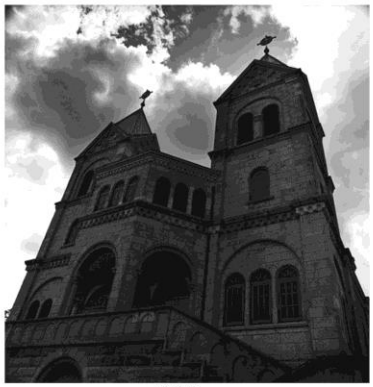
レジャー

ブリッジ

加藤貞雄

【プロフィール】
栃木県さくら市在住ー全日本写真連盟栃木県本部氏家支部にて写真を学ぶ。

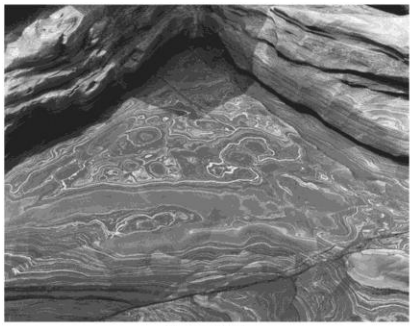
【予感】
聖堂の真上に、抜けるような青空と、周囲から湧き立つような雲が、まるで「天使降臨」を思わせるものでした。
【残照】
夏の終わりを告げようとするひまわりが、夕暮れのわずかな光に輪郭を輝かせました。

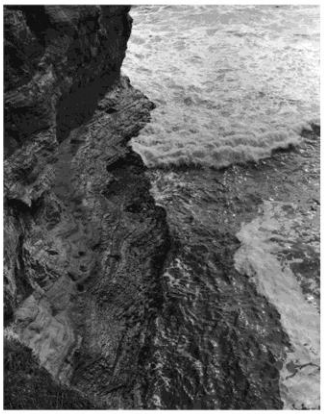

残照

予感

北野龍一

(monologue)
写真には撮る楽しみと見る楽しみがある。どちらが好きかと聞かれたら、迷わず撮る方と答える。何故なら、撮る楽しみには広がりがある。暗室でのフィルム現像。極めて単調な作業を続けながら、何時だって上手く撮れているかドキドキし、興奮する。プリント作業だってそうだ。撮影時に頭の中にvisualizeしたイメージが紙の上に如何に再現出来るか、何時だって期待と不安が交錯する。僕は未熟だからプリントはこれでよいと云う結論がなかなか出ない。試行錯誤を繰り返す。
こうして、今日も暗い部屋の中で終わりのない苦行が続く。
プロメテウスのように。
僕の人生は暗いのかなぁ？

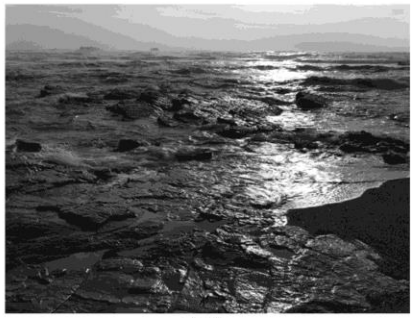

海の堆朱


春の海

小菅秀一

【プロフィール】
1954年生
2006年　ゾーンシステム研究会入会
茨城県取手市在住

【船の残骸】
撮影地　茨城県神栖市
8月の鹿島港内にて、解体中の船体。
【海岸】
撮影地　千葉県銚子市
9月の早朝、台風通過直後の海岸。

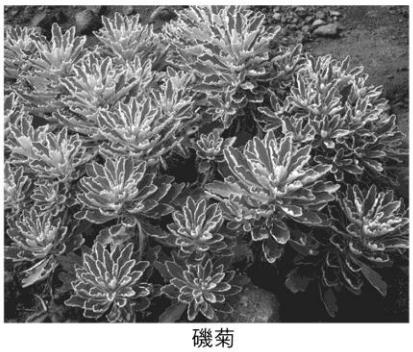

海岸

船の残骸

橘田功

【プロフィール】
・1939年　生
・1997年　第71回　国展　初入選
・2005年　国画会写真部　準会員
・2006年3月　個展「中欧の街から」橘田　功　写真展
　　京セラ・コンタックスサロン東京
・社団法人　日本写真協会　会員
・日本写真作家協会　会員
・小金井市在住

【かぐやの見た海】
若しかして水の無い月の海は・・と思いを馳せながら、空気の無い無重力の空間をイメージし撮影。
【磯菊】
三宅島サタド岬高濃度火山ガス地区、有毒ガスに蝕まれ白骨化した木々の下に健気に、力強く生えた磯菊、その美しさは
神々しく気品さえ有った。


磯菊

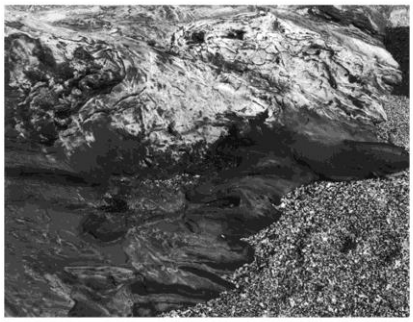
かぐやの見た海

酒巻澄江

【プロフィール】
・東京都出身
・昨年ゾーンシステム研究会に入会し、今年2回目の作品展です。
昨年は何もわからず、無我夢中で作品展に辿り着きました。
今年もアッと言う間に作品展です。

そして、今年のテーマは「海」
撮影会に参加し、今迄の被写体との違いに戸惑い、また、どのようにプリントしたら良いのかわからず、昨年とは違った戸惑いがありました。
こんな戸惑いをくり返しながら、すこしずつでもファインプリントに近づけたらな～と思っています。

来年のテーマは何？？

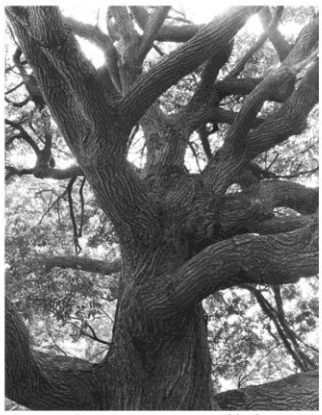

爪痕

騒めき

古谷津純一

写真界の多くがデジタルに移行する中で、この流れに逆行するかのごとく銀塩による作画活動をしています。
デジタル写真は銀塩写真のクオリティー、とりわけ黒白写真の美しさに未だ敵わないとされていますが、近い将来追いつき、追い越す時が来るでしょう。しかしながら、私はその時が来ても銀塩の感材が供給される限りこの方法で活動します。
なぜなら、この方法論を学び実践することも、作画と並んで私の楽しみであるからです。
大判写真機と共に過ごす休日や撮影後の暗室作業は、時間を忘れて没頭できる自身の宝物でありますが、もはや趣味の域を越えて、“戦いである”とさえ感じています。

morning calm （朝凪）



dancing tree （舞）

畑文夫

不幸にして？　ゼラチン・シルバー・プリントの美しさを知ってしまったために、悪戦苦闘の日々が続いている。
そんな中で、数年前にジョン・セクストンのワークショップで学んだ言葉が励みとなり、カメラを担いで歩き回ることは終わりそうもない。
　愛するものを写真に撮りなさい、そうすれば写真が好きになる！
　Practice, practice, practice！（一に実践、二に実践、三に実践・・・）

海岸の岩の身をよじるようなフォルム、高速道路の無機的だが、なぜか官能的な曲線。どちらも自分にとっては等価な対象である。

1949年生れ
団塊世代の会社員

Junction

Surf and rock

倉又茂

【プロフィール】
写真歴は長く、フジペットで初めて写真を撮った世代である。大型カメラは始めて5年ほど。本当に楽しいと感じている。
カラーによる建築写真を専門に撮っている。建築写真仲間と「建て物写真展」を毎年9月に行っている。

【Hafe Dome】
撮影場所ヨセミテ、グレシャーポイント。
グレシャーポイントには朝5時前についたが、辺りは霧で真っ白であった。
夜明けとなるが、いっこうに晴れない。我慢して待つと、徐々に霧が晴れ始め、今度は時々刻々と雲が変化していく。Hafe Domeの 尖端が見えた瞬間をとらえた。
【潮見橋】
研究会の撮影会でお台場の船の科学館周辺にいった。ほぼ撮影も終えて、潮見公園の遊歩道を歩きながら最後の撮影ポイントで、撮った写真。ずいぶん夕暮れでになったが、潮見橋には人通りが途切れない。我慢しきれずに、シャッターを押したので、奥に人影がかすかに残った。

潮見橋

Half Dome

佐野司郎

【プロフィール】
・ゾーンシステム研究会に入会し早、10年がたちました。
入会後一貫して静物を撮っています。被写体の美しさ、形の面白さなどを追求しています。

今回はテーマ「海」ということで地元大磯の魚屋さんで干された魚、2点を出展しました。
造形、光沢の美しさを表現できたか心配ですが、ごゆっくりご覧下さい。

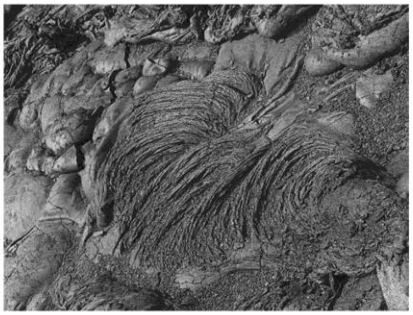
無限への遡行Ⅰ

無限への遡行Ⅱ

宮岡貞秀

今から50数年前、私は父のカメラを使って写真の楽しさ知り、大学の写真部に入部し、暗室作業を通じて写真の面白さと美しさを知りました。
当時の写真はモノクロでカラーフイルムは高価で学生には手が届きませんでした。しかし今は殆どがカラーになり更にデジタルの世界になりました。
その結果コダック社を初めとして多くの写真関連メーカーが銀塩写真の世界から撤退し今やデジタル全盛になりそうです。
しかし写真の美しさの原点は銀塩写真のモノクロだと思います。白と黒とで表現するモノクロの世界はそれを見る人に色彩を想像させその美しさを感じさせてくれます。
私はこの美しさ求めて、限られた写真材料を使用してこれからも銀塩モノクロ写真を撮り続けたいと思っています。

黒い世界　1



黒い世界　2

岸芳明

【写真歴 】
仕事の傍ら、趣味として写真専門学校の土曜日コース等で、写真の基礎を学び静物写真・風景写真を中判カメラを使用して撮影しています。
最近はデジタルにも興味を持って写真アートを作っています。

【一羽】
1灯ライティングによる物撮りです。
背景に光りを当てない事により、暗い背景の中に黒い羽を一浮き上がらせています。
【防波】
新潟の海での撮影、防波堤と対になる様に船がちょうど良い位置に来るのを撮影しました。

防波

一羽

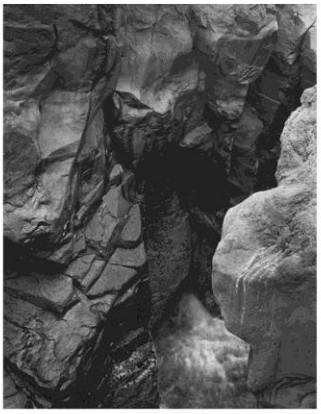
昭和7年東京出身。
昭和26年頃から写真に興味を持ち、平成に入り本格的に活動再開。
デジカメによるカラー写真全盛の時代に逆らい、写真の本筋は銀塩のモノクロであると信じ、モノクロの画面で美しさを感じさせる作品作りを目標に努力中。
紹介写真に写っている愛犬もモノクロです。今回の作品はヨセミテ撮影旅行での公

浜野次郎

モノクロームの写真が現実よりも美しく感じるのは何故なのでしょうか？カラーも黎明期のオートクロームなどは極めて美しいのですが・・・
白黒映画の場面はいつまでも記憶に残るのに、カラーの映画はすぐ 忘れてしまいます。
そういえば私のみる夢はほとんどモノクロームなのですが皆さんは いかがですか。

【巌轟く】
研究会の伊豆撮影旅行で撮影。岩場の裂け目に押し寄せる波しぶきと轟音。海水の半永久的な反復運動に耳を傾けていると次第に気が遠くなる。ぬるぬるした足元を気にかけながらシャッターを切った。
【ポトス】
夏場はどうしても外にカメラを持ち出すのが億劫になり、冷テーブルフォトが多くなってしまう。花瓶のポトスの茎も怠惰に伸びきっている。波打つような花瓶はフィンランドの巨匠A.AARTOの作品です。

ポトス


巌轟く

宮内廣仁

【プロフィール】
私は、ゾーンシステム研究会に入会して、2年になります。
出展は、今回が初めてで、現在は主に大. 中判カメラにより風景（モノクロ、カラー）を写しています。
今後は身近な物に目を向けてモノクロの写真を撮りたいと思います。

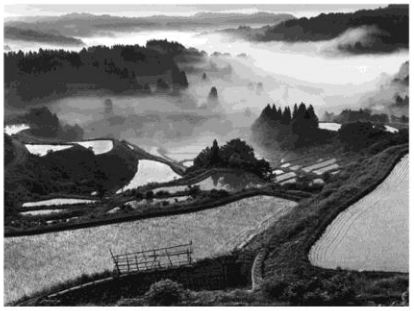
港点景

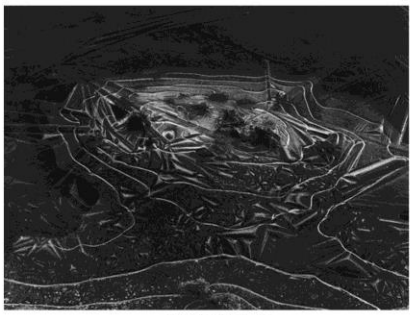
雪山景

藤田昇

【プロフィール】
1947年生
1963年　写真家「濱谷浩」氏の影響を受け興味を持ち始める
1971年　柏崎市美術展覧会初入選
　　最優秀賞2回　河合賞受賞　奨励賞4回　入選12回
1972年　新潟県美術展覧会初入選　　入選16回
1999年　新潟県美術展奨励賞受賞
2005年　トミオカホワイト白の世界写真コンテスト銀賞受賞
2005年　JCII写真教室に参加
2007年　ゾーンシステムワークショップに参加後、研究会

【写真（モノクローム）についての思い入れ、考え】
写真をはじめた頃はモノクロの時代、その後カラーが誕生し、試みるもきれいと言うだけの色彩写真に飽きが来る。以来、ケミカルモノクロームにこだわっている。雪国に暮らし、色彩の無い単純化されモノクロームの世界にこそ写真の美しさがあり力強さがある。暗室作業を通してゾーンシステムはカラーにも優る色調表現が楽しめると感じはじめている。


星峠眺望


薄氷の形象

小野望

【プロフィール】
元　日本写真作家協会会員
元　日本写真家連盟会員
2008年2月26日　逝去

モノクロ写真の白と黒、その中間の微妙なグレーの持つ美しさはモノクロ写真だけの世界であると感じ、その美しさに魅了され大型カメラで日本の素晴らしい自然を記録している。
現在、表情豊かな森に魅せられ「森と水」をテーマに森の表情を撮り歩いている。（2007年11月記）

遺作【CACTUS】
アリゾナ州　ニューリバー
フェニックスの近郊西部劇を彷彿させるサボテンを強調させた。

CACTUS

ゾーンシステム研究会第13回写真展メディア掲載

ゾーンシステム研究会 展覧会
「光への探求」

2008年11月26日～12月2日　京セラ・コンタックスサロン東京

「月の海」2008 ©Isao Kitsuda

「午後の光」2007 ©Hideo Nakajima

ゾーンシステム研究会は、アンセル・アダムスが考案したゾーンシステムを習得することを目的として、1995年に発足した団体。

主に撮影会、暗室ワーク、講評会、作家研究、フレーミング・マット加工、プリント・コレクション等の活動をしている。

1996年から毎年展覧会を開催し、13回目を迎える今年のテーマは「光への探求」。銀塩モノクローム・ファインプリントの魅力を伝えることを目的に、約40点のプリントを展示する。

問 03-3282-7571

（コマーシャルフォト2008年10月号 掲載）

写真展 自薦 いろいろ 他薦

※ゾーンシステム研究会第13回写真展「光の探求」＝11月26日～12月2日に京セラコンタックスサロンで開かれる。ゾーンシステムを駆使した銀塩モノクローム・ファインプリントの魅力を伝えることを目的に、約40点を飾る。

（フォトステージ11-12月号 掲載）

朝日マリオン・コム

ゾーンシステム研究会「光への探求」

※日時や内容などが変わることもあります。
主催者にご確認のうえお出かけください。

11月26日(水)～12月2日(火)、午前10時～午後6時(2日は4時まで)、東京・有楽町の東京交通会館7階、京セラ・コンタックスサロン東京(有楽町駅、TEL03・3282・7571)。

撮影場所の明るさを測定し、露出を正確に決めることでグラデーションが豊かな銀塩写真を撮影する「ゾーンシステム」。この手法を習得した会員20人が海などをテーマに撮影した約40点を紹介する。30日休み。

（マリオンHP 掲載）

マリオン mullion

写　真

◆ゾーンシステム研究会「光への探求」

26日水～12月2日火、午前10時～午後6時（2日は4時まで）、東京・有楽町の東京交通会館7階、京セラ・コンタックスサロン東京（有楽町駅、☎03・3282・7571）。撮影場所の明るさを測定し、露出を正確に決めることでグラデーションが豊かな銀塩写真を撮影する「ゾーンシステム」。この手法を習得した会員20人が海などをテーマに撮影した約40点を紹介する。30日休み。

（朝日新聞夕刊2008年11月26日 掲載）

ゾーンシステム研究会第13回写真展スナップ

（2008.11.26-12.2 京セラ コンタックスサロン）

ゾーンシステム研究会 第13回写真展 作品データ

photographer	theme	title	place	camera	lens	f-stop	speed	film	paper	key zone
代表 中島秀雄	自由	Bridgeport Community Church, Calif.	Bridgeport, Calif.	Wisner 4x5	150mm	f22 1/3	1/25s	320TXP	SEAGULL VC-FB Ⅱ	Wall zone Ⅶ—Ⅷ Roof zone Ⅲ
	海	Screw Propeller, Ariake	東京都有明	Wisner 4x5	210mm	f64	1/4s	320TXP	SEAGULL VC-FB Ⅱ	Screw zone Ⅴ—Ⅸ
	自由	Matthew Adams, Yosemite, Calif.	Yosemite, Calif.	Makina 670	80mm	f11	1/15s	400TXP	SEAGULL VC-FB Ⅱ	Shirt zone Ⅳ
橋田 功	海	かぐやの見た海	神奈川県三浦半島 城ヶ島	Ebony 4x5	180mm	f45	1/4s	400TMY	BERGGER VARIABLE CB	中央岩ひだZone Ⅴ 左下から伸びる白いひだZone Ⅶ
	自由	磯菊	東京都三宅島 サタド岬	Ebony 4x5	210mm	f45	1/8s	400TMY	BERGGER VARIABLE CB	葉裏の裏白Zone Ⅵ 葉の表Zone Ⅳ
倉又 茂	自由	Half Dome	ヨセミテ グレシャーポイント	Ebony 4x5	270mm	f45	1/15s	Acros 100	ILFORD MULTIGRADE	
	自由	瀬見橋	お台場 瀬見公園	Ebony 4x5	90mm	f64	4s	Acros 100	ILFORD MULTIGRADE	
荒井 崇	自由	橋脚	熊本県小国町 旧宮原線	Tachihara 4x5	210mm	f32	1/4s	320TXP	SEAGULL VC-FB Ⅱ	橋脚のシャドーZone Ⅲ 橋脚のハイライトZone Ⅶ
	海	コンテナ埠頭	お台場 臨海コンテナ埠頭	Tachihara 4x5	150mm	f32 1/3	1/8s	320TXP	SEAGULL VC-FB Ⅱ	船のシャドーZone Ⅲ 車のボディZone Ⅶ
佐野司郎	海	無限への遊行 1	自宅	Linhof 4x5	210mm	f45	8s	Acros 100	SEAGULL VC-FB Ⅱ	魚の一番白い部分 Ⅶ 背景 Ⅱ
	海	無限への遊行Ⅱ	自宅	Linhof 4x5	210mm	f45	8s	Acros 100	SEAGULL VC-FB Ⅱ	魚の一番白い部分 Ⅶ 背景 Ⅱ
越後久雄	海	潮音	城ヶ島海岸	Ebony 4x5	300mm	f22 1/3	1/8s	400TMY	Rembrant V G2	ダークエリア zone Ⅲ
	自由	tunnel	碓氷峠	Ebony 4x5	210mm	f32	50s	400TMY	Rembrant V G2	最暗部 zone Ⅱ 最明部 zone Ⅶ
岡崎克之	海	ブリッジ	芝浦埠頭	Wista 4x5	110mm	f45	1/8s	320TXP	SEAGULL GF-2	橋桁 zone Ⅲ-Ⅳ 海 zone Ⅳ
	海	レジャー	お台場海浜公園	Wista 4x5	210mm	f22	1/60	320TXP	SEAGULL VC-FB Ⅱ	海面 zone Ⅶ-Ⅷ 人物・ボード・空 zone Ⅳ-Ⅴ
加藤卓雄	自由	予感	栃木県宇都宮市 カトリック松が峰教会	BRONICA 6x6	50mm	f22	1/250s	400TMY	SEAGULL VC-FB Ⅱ	壁面 zone Ⅳ
	自由	残照	栃木県さくら市 喜連川地内	BRONICA 6x6	80mm	f22	1s	400TMY	SEAGULL VC-FB Ⅱ	花 zone Ⅳ
岸 芳明	自由	一羽	富内	Mamiya RB67	127mm	f22	1s	100TMX	SEAGULL VC-FB Ⅱ	
	海	防波	新潟の海	Mamiya 7 Ⅱ	80mm	f22	1/30s	100TMX	SEAGULL VC-FB Ⅱ	
北野龍一	海	春の海	茨城県五浦海岸	Ebony 4x5	180mm	f22	1/60s	400TMY	SEAGULL VC-FB Ⅱ	波頭:ゾーンⅦ 岩影:ゾーンⅢ
	自由	海の堆朱	茨城県五浦海岸	Ebony 4x5	180mm	f45 1/3	1/8s	400TMY	SEAGULL VC-FB Ⅱ	白い線:ゾーンⅦ 明るい岩肌:ゾーンⅤ

古谷津純一	自由	dancing tree（舞）	千葉県野田市	TOYO 8x10	240mm	f64	5s	400TMY	Rembrant V G2	木：zone Ⅲ 空：zone Ⅸ
	海	morning calm（朝凪）	千葉県銚子市	Deardorff 8x10	120mm	f45	1/2s	400TMY	SEAGULL VC-FB Ⅱ	岩：zone Ⅲ 海：zone Ⅸ
小菅秀一	海	海岸	千葉県銚子市	TOYO 4x5	210mm	f45 1/2	1/15s	100TMX	SEAGULL GF-2	空　ゾーンⅢ 崖下の岩場　ゾーンⅢ
	自由	船の残骸	茨城県神栖市	TOYO 4x5	300mm	f64	1/8s	100TMX	SEAGULL GF-2	船体の上部　ゾーンⅦ 船体下部（影の部分）　ゾーンⅡ
酒巻澄江	自由	騒めき	白神十二湖 沸壺の池	Linhof 4x5	210mm	f22	4s	Acros 100	ILFORD MULTIGRADE	
	海	爪痕	城ヶ島	Linhof 4x5	210mm	f32	1/4s	Acros 100	ILFORD MULTIGRADE	
石井政吉	海	岩・アンバランスな安定感	城ヶ島海岸	Tachihara 4x5	150mm	f45	1/2s	Acros 100	Rembrant V G2	岩の濃い所中央ゾーン5 白い所ゾーン7
	海	波・上げ潮の残影	城ヶ島海岸	Tachihara 4x5	210mm	f64	4s	Acros 100	Rembrant V G2	波の濃い所ゾーン4 岩画面の右上と右端ゾーン5
松本ひさ子	海	荒崎海岸	荒崎海岸	Wista 4x5	210mm	f64	1s	320TXP	Rembrant V G2	
	自由	鳳凰	中国湖南省鳳凰	Ikonta 6x6	75mm	f11	1/60s	400TXP	Rembrant V G2	
浜野次郎	自由	ポトス	自宅	Tachihara 4x5	150mm	f45	2s	320TXP	SEAGULL VC-FB Ⅱ	テーブルZONE Ⅷ ポトスの葉ZONE Ⅴ
	海	巌聳く	伊豆	Tachihara 4x5	210mm	f32 1/2	1/8s	320TXP	SEAGULL VC-FB Ⅱ	岩肌ハイライトZONE Ⅶ 岩肌中間部ZONE Ⅳ
藤田　昇	自由	薄氷の形象	新潟県柏崎市 鵜川	Linhof 4x5	210mm	f32	1/30s	400TMY	SEAGULL VC-FB Ⅱ	氷のアンダー部zoneⅢ 氷のハイライト部zoneⅦ
	自由	星峠眺望	新潟県十日町市 松代星峠	Linhof 4x5	210mm	f32	1/8s	400TMY	SEAGULL VC-FB Ⅱ	山の暗部zoneⅢ 朝霧・田のハイライトzoneⅦ
畑　文夫	海	Surf and rock	伊豆城ヶ崎海岸	Wista 4x5	210mm	f45	1/2s	100TMX	Rembrant V G2	砕ける波頭 ZONE Ⅶ-Ⅸ
	自由	Junction	初台交差点	Wista 4x5	90mm	f16	30s	100TMX	Rembrant V G2	高速道路のフェンス ZONE Ⅵ
圓子靖也	海	光る波	船の科学館 近信	Wista 4x5	210mm	f45	1/15s	400TMY	Rembrant V G2	光る波 zone 対岸の建物 zone
	自由	ヨセミテの滝	ヨセミテ国立公園	Wista 4x5	210mm	f45	1/30s	400TMY	Rembrant V G2	水飛沫 zone 岩石 zone
宮内廣仁	自由	雪山景	長野県松本市 美ヶ原	Linhof 4x5	400mm	f45	8s	Acros 100		雪の白さ（ゾーン8） 樹林帯と山並（ゾーン3～5）
	海	港点景	静岡県伊東市 伊東港	Linhof 4x5	150mm	f45	4s	320TXP		漁船の船体（ゾーン8） ヨットの船体（ゾーン3～5）
宮岡貞英	自由	黒い世界　1	ハワイ島 キラウエア火山	Contax 645	80mm	f11	1/30s	Plus-X	SEAGULL VC-FB Ⅱ	岩の表面 zone Ⅶ 岩陰 zone Ⅲ
	自由	黒い世界　2	ハワイ島 キラウエア火山	Contax 645	80mm	f11	1/30s	Plus-X	SEAGULL VC-FB Ⅱ	岩の表面 zone Ⅶ 岩陰 zone Ⅲ
故・小野望	自由	Cactus	アリゾナ州 ニューリバー	Mamiya 7	65mm	f22	1/2s	400TMY	Rembrant V G2	カクタス zone Ⅴ 山 zone Ⅳ

MARIANA COOK 写真集　Close at Hand

畑文夫

最近手にした写真関係の本で、印象に残ったものを紹介します。

● MARIANA COOK 写真集 [Close at Hand]
・出版社:Quantuck Lane Pr & the Mill Rd (2007/10/30)
・価格： ￥4,172
(Amazon.co.jp で 2009 年 1 月現在)

「一粒の砂に世界を、そして野の花に天国を観る...」巻頭におかれたブレイクの言葉がこの写真集のコンセプトを物語っている。

黒バックの中、わずかなグラデーションをもった白い卵、砂の中に立つ幼女の足、霧にかすむ山、キノコや草花の抽象的なクローズアップ、等々。端正な正方形に切り取られた写真を説明するとこんな言葉になるだろうか。

マリアナ・クックという、私には未知の写真家の仕事を知ったのは、ジョン・セクストンから時々送られてくるニュースレターであった。ジョンによると、彼女は肖像写真の分野ですでに優れた仕事をしているが、この写真集では新しい対象に目を向けたのだという。興味を持ったので、さっそくアマゾンで注文した。

作者は千年紀の変わり目を前に、一日一枚の写真を創るという義務を自分に課したそうだ。写真のクレジットにも撮影場所と年月日、時刻までが丹念に記入されている。しかし時間の移ろいがテーマではなく、どの写真も抽象的とも言える造形と構成、そして美しいグラデーションに満ちた独立した作品だ。ストイックで宗教的なものすら感じさせる、抽象化の極限としての白黒写真となっている。

控えめなセルフポートレイトなど、わずかな例を除いて、人物写真はほとんどみられないし、都会の喧騒を感じさせるものもない。すべてが女性らしい繊細さと身近な事物に対する鋭い観察力で捕らえられている。そしてなにより対象への愛がベースとなっていることが明らかだ。老母とつないだ自分の手に象徴されるような、対象との触れ合いや共感がシャッターを押させる最大の動機だったと想像される。セクストンのことば「愛するものを撮りなさい、そうすれば写真が好きになる。」を思い出させる。

この小文を書くため、久しぶりにこの本を開いた１２月のある日、蜷川実花と森山大道／ミゲル・リオ＝ブランコの写真展をはしごしてみた。彼らの写真に共通するのは、一粒の砂に世界を観ようとするより、部屋中に砂をばら撒くという方法論のようだ。観る者を包み込むように拡大し壁一面に貼り付けられた写真、都市の喧騒に満ちた暴力的な色彩やコントラスト、そして荒れた（色の）粒子。どちらの展覧会でもプロジェクターで映像を投影しているが、ぐらぐらと落ち着かない視線は対象への共感というより、それを利用するために追い回しているようにも思える。

クックの写真とは対極にある世界観。ポピュラリティを獲得するにはこんなアプローチが必要なのだろうか。東洋と西洋の伝統的な思想が逆転しているように感じられて興味深かった。

クックは「アダムスの最後の弟子」だという。ストレート・フォトグラフィの伝統を受け継いだ、小さいがすばらしい写真集である。

Information

【トピックス】

畑文夫さん写真展「マイ・ホームタウン」開催

2008 年 10 月 28 日～11 月 9 日、研究会事務局畑文夫さんの写真展が開催されました。

古き良き時代に撮影した井の頭（畑さんの地元）の写真をまとめたものです。

会場はとても良い雰囲気のカフェでした。

[作者コメント]

個展の初体験で、ファインプリントとは無縁の作品でしたが、貴重な経験になりました。

次の機会があれば、ゼラチンシルバーの美しさを展示してみたいと考えています。

“ゾーンシステム・ワークショップ” 開催決定

（ヒットオン主催）

カリキュラム

第1回 5/9（土）13～17時 会場:ヒット・オン

ゾーンシステムとは何か、フィルムの感度測定のための撮影。フィルム現像の方法と注意事項。各自現像

第2回 5/24（日）13～17時 会場:ヒット・オン

標準現像時間を求めるテスト撮影、4本撮影。現像方法と注意事項。各自現像。

第3回 6/7（日）A班9～13時、B班14～18時 会場:ヒット・オン

フィルムの標準現像時間を見つけるテスト撮影。最大黒、最大白を求め、撮影ネガからプリントすることで標準撮影現像時間を見つける。

第4回 6/21（日）10～17時 会場:ヒット・オン

ゾーンシステムによる撮影。ゾーンの捉え方とビジュアライズの訓練。ポラロイドによるデモンストレーション。各自現像。

第5回 7/5（土）A班9～13時、B班14～18時 会場:ヒット・オン

ファインプリント制作。コンタクトプリント、テストプリントの方法。バーニング、ドジングによるプリントテクニック。自然乾燥。

第6回 7/19（日）13～17時 会場:ヒット・オン

仕上げ→作品講評→まとめ→終了。ドライマウント、プリント収集方法。ベストプリント1点を目標にする。

準備
- ●35ミリカメラ・中判 8×10インチカメラ
- ●三脚とレリーズ（常用しているもの）
- ●スポットメーター（ペンタックス・スポットメーター推奨）
- ●印画紙、バライタ紙、8×10サイズ50枚程度
- ●フィルム：常用している35ミリフィルム・ブローニー・フィルム10本程度、4×5、8×10シート、フィルム30枚程度
- ●18%グレーカード（8×10サイズのグレーカード） ●筆記用具

募集要項

◎募集人員 15名限定 ◎受講料 50,000円（各自使用するフィルム、印画紙、暗室代は含まず。暗室料金は第3回、5回のみ含む）

以下記事が日本カメラ5月号に掲載されました。

Photo Market 【フォト・マーケット】

モノクロ銀塩写真をじっくり学ぶ「ゾーンシステム」講座

被写体の光をゾーンとして捉え、フィルムや印画紙の特性を熟知することで、撮影から現像、プリントまでのシステムを確立するアンセル・アダムス提唱の「ゾーンシステム」に基づき、参加者各人のシステムを構築する講座。中判・大型カメラの貸し出し可。講師は中島秀雄氏。詳細はウェブサイトにて。

◎日程＝全6回（5月9日・5月24日・6月7日・6月21日・7月5日・7月19日）

◎受講料＝5万円 ※フィルム、印画紙、暗室代（一部）含まず

◎募集人員＝15名

◎申込み＝レンタルラボヒットオン ☎03-6659-6866 Fax 03-3552-0113 E-mail＝lab@hit-on.co.jp URL＝http://www.hit-on.co.jp/

Information

「中島秀雄写真展
ファインプリント光へのまなざし」 展開催

ギャラリー「アートスペースモーター」において、中島代表の展覧会が開催されます。

・場所：アートスペースモーター
（前記ワークショップと同一場所）
・会期＝2009 年 5 月 8 日（金）～ 5 月 24 日（日）
＊11 日（月）17 日（日）18 日（月）休廊
・12:00-20:00
・TEL：03-3552-0123

「銀塩写真の魅力」 展開催

ギャラリー「ときの忘れもの」において、銀塩写真の魅力をテーマにした展覧会が開催されます。《今回は中島代表の作品も展示されます。》

上記ギャラリーは、元々版画を主体にしたギャラリーですが、昨今、写真作品にも非常に注力し始めているギャラリーです。ぜひお越しください。

・銀塩写真の魅力～Gelatin Silver YES!
・場所：ギャラリー「ときの忘れもの」（外苑前）
・会期＝2009 年 6 月 9 日（火）～ 6 月 27 日（土）
・12:00-19:00　＊日・月・祝日休廊
・TEL：03-3470-2631

［ギャラリーコメント］

ゾーン・システムを考案したアンセル・アダムス、それを現在日本で実践する中島秀雄、複数のネガを多重焼付けしてひとつの画像を作り上げるジェリー・ユルズマンなど暗室作業にこだわった作家のほか、ウィン・バロックの代表作「森の中の子供」、エドワード・ウェストンの「ヌード（1936）」などの作品を通して、銀塩写真の魅力に触れていただきたいと思います。